

eラーニング教材の蓄積を活用した大学教育・生涯学習における新しい学習形態に向けて

オーガナイザ： 吉根勝美（南山大学），山住富也（名古屋文理大学），
長谷川信（岐阜聖徳学園大学），野崎浩成（愛知教育大学）

（目的）

これまで3回にわたり，教育システム情報学会東海支部では，「e-Learning 教材の共有化における諸課題の解決に向けて」，「教材データベース構築における数値情報と文字情報の整合性について」，「データ分析に基づいた e ラーニング開発に向けて」と題し，e ラーニング教材に関わるワークショップ／プレカンファレンスを企画し，実施してまいりました．後述する新しい学習形態において，これまでに蓄積されてきた e ラーニング教材やさまざまな教育データを利用することになるでしょう．さらに，必ずしも教育用途ではない目的で蓄積が進んでいるデジタルデータも，e ラーニング教材として大学教育や生涯学習に活用する機会があるでしょう．そこで，このプレカンファレンス企画は，東海支部の活動の一つである“e ラーニング勉強会”の報告を兼ねて，これまでの3年間の e ラーニング教材に関わる議論を，大学教育・生涯学習における新しい学習形態に向けて発展させることを目的とします．

（背景）

昨年あたりから，“タブレット端末”を利用した教育や，“反転授業”とか“MOOC”といった新しい形態の学習方法が話題にのぼっており，従来の e ラーニング教材が，こうした新しい形態の学習にどう活用できるかは，検討すべき課題でしょう．また，あらゆる分野で，あらゆるデータがデジタル化されており，そうしたデータの利用のオープン化が広がれば，大学生や社会人に対する教育での効果的な利用方法も検討すべき課題です．同世代の半数近くが大学へ進学する時代を迎え，大学教育・生涯学習の充実が求められる中，東海支部では，e ラーニング教材の共同利用に関する課題に取り組んでいます．このプレカンファレンスが，東海支部の活動を全国の会員と共有できる好機となることを願って，報告と討論を行います．

（内容）

プレカンファレンスの前半では，4～5名程度の登壇者が報告を行い，後半で，参加者のみなさんを交えて討論を行う予定です．申し込み時点では，以下のような報告を予定していますが，東海支部会員以外の方にも，登壇を依頼する計画です．

「大学教育・生涯学習における新しい学習形態に向けた教材整備」

「4年目を迎える iPad を利用した大学授業」

「栄養士養成におけるデータ活用」

「eラーニングと心理学的な理論（自己調整学習）」